

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
言葉の意味や用法の理解、文章の構造や内容を理解する力を養う。	明確で効果的な文章を書く力を養う。 口頭で自分の意見を伝える力を身に付けさせる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第4学年	<p>ア 文章に書いてあることを、正しく理解することが、苦手である。</p> <p>イ 課題に対する、自分の考えをもつことが、苦手である。</p>	<p>ア 音読に取り組みさせる。人物の気持ちや場面の様子を捉えられるよう、話し合いで考えを共有させる。</p> <p>イ 選択肢のある課題や、児童の関心の高い課題を提示することで、自分の考えをもたせるようにする。</p>	<p>ア 市学力調査【知識・技能】 正答率は、59.9%。</p> <p>イ 市学力調査【思考・判断・表現】 正答率は、53.6%。 所見 行数指定や2段落構成で書くなどの条件下で書く経験を持たせる。</p>
第5学年	<p>ア 読解力に差があり、文脈を正確に読み取ることが難しい場面が多くある。</p> <p>イ 自分の意見を、理由を添えて説明することが苦手である。</p>	<p>ア 要点をどのように読み取るのか、具体的に指導し、サイドラインを引かせて可視化できるようにする。</p> <p>イ 話し合い活動の前に、自分の考えをワークシートやノートに書かせる。</p>	<p>ア 市学力調査【知識・技能】 正答率は、58.5%。</p> <p>イ 市学力調査【思考・判断・表現】 正答率は、57.0% 所見 日常的に根拠をもとにした自分の考えをもたせる指導が必要。</p>
第6学年	<p>ア 文章を正しく読みとれず、要点をおさえたり、要旨をまとめたりすることが難しい児童が多い。</p> <p>イ 自分の意見を、他者に分かりやすく伝えることに、苦手意識がある。</p>	<p>ア 文章の構成や、大切な語句に注目させながら文章を読む。読み取った内容を、まとめる活動に取り組みさせる。</p> <p>イ 意見交換をする機会を増やす。児童同士で、伝え方の評価をさせる。</p>	<p>ア 要点を押さえられる児童が増えた。要旨をまとめることにはまだ課題がある。</p> <p>イ 分かりやすく伝えるための工夫ができるようになってきた。</p>

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について

4年:児童の理解度に応じたデジタル教材を使用し、個別のペースで学習できるようにする。理解したことを Microsoft Teams を使って、交流する。

5年:児童ごとに異なるテーマを設定し、デジタル教材を使って個別に取り組みさせる。最終的にまとめて一つのプレゼンテーションを作成する。

6年:児童が各自で個別に国語に関する調べ学習を行い、その結果をグループで共有し、共同で発表資料を作成する活動を行う。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

4年:児童の興味関心に合わせた物語を紹介し、読書活動を推進させることで、国語への意欲を高める。

5年:漢字テスト等で目標設定を行い、努力を褒め、学びの成果を認めることで、意欲を高める。

6年:自身の課題を把握させた後、自分で学習目標を設定し、自主的に学習をすすめるよう指導する。

令和6年度 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校 授業改善推進プラン 教科名 **算数・数学**

算数科・数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基礎的な計算能力や、数学的な概念の理解を深める。	答えだけでなく、その導出過程を分かりやすく説明できるようにする。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第4学年	<p>ア 四則計算で簡単な間違いをしたり、時間がかかったりする児童がいる。</p> <p>イ 解き方や考え方を説明することが苦手である。</p>	<p>ア 100マス計算やプリントを使い、基本的な四則計算の反復練習に取り組ませる。</p> <p>イ 類似問題の数値を簡略化させて解かせる。また、解き方や考え方を選択できるようにする。</p>	<p>ア 市学力調査【知識・技能】 正答率は、59.9%。</p> <p>イ 市学力調査【思考・判断・表現】 正答率は、53.6%。 所見 数直線上の数の大小や、概数の表し方が弱い。</p>
第5学年	<p>ア 基本的な方程式や、式の操作方法を理解できていない児童がいる。</p> <p>イ 解き方や考え方を説明することが苦手である。また、立式をする際、筋道を立てて考えることが苦手な児童が多い。</p>	<p>ア 反復練習に取り組ませる。また、買い物の計算や時間の管理など、実生活で遭遇する問題に取り組ませる。</p> <p>イ 既習事項や公式を教室に掲示したり、学習の初めに復習したりする。また、説明のフォーマットを準備する。</p>	<p>ア 市学力調査【知識・技能】 正答率は、53.1%。</p> <p>イ 市学力調査【思考・判断・表現】 正答率は、42.6%。 所見 小数のかけ算・わり算、分数のたし算・ひき算が弱い。</p>
第6学年	<p>ア 基礎的な計算能力に、差が見受けられる。</p> <p>イ 解き方や考え方を説明することが苦手である。長文問題の読み取りが苦手な児童が多い。</p>	<p>ア 定期的な小テストを実施し、学習の進捗を確認する。個々の理解度に応じた、ドリルの取組ができるようにする。</p> <p>イ 長文の文章問題では、必要な情報を枠で囲ませたり、数値を簡略化させたりすることで、理解できるようにする。</p>	<p>ア いろいろな手立てにより、計算能力の向上が見られた。</p> <p>イ 問題の読み取りができるようになった児童もいるが、課題が残った。</p>

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について

4年:児童の理解度に応じたデジタル教材を使用し、個別のペースで学習できるようにする。最終的にグループでフィードバックを行う。

5年:児童ごとに課題を設定し、デジタル教材を使って個別に取り組ませる。理解度ごとのグループをつくり、協力して課題解決できるようにする。

6年:児童が各自で個別に算数に関する調べ学習を行い、その結果をグループで共有し、共同で発表資料を作成する活動を行う。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

4年:数字や形を使ったゲームやパズル等を取り入れ、楽しみながら学べる活動を行うことで、好奇心を引き出す。

5年:毎日短時間でもドリルに取り組ませ、その成果を可視化させることで学習習慣を確立させ、正解したときや努力を認めることで、前向きな態度を育てる。

6年:学習の振り返りを行い、自己の理解度を自己評価することで、学びに向かう力を高める。